

令和元年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階) 私立 東海大学附属福岡高等学校

		学校運営計画 (4月)				
学 園 運 営 方 針	若き日に汝の思想を培え 若き日に汝の体躯を養え 若き日に汝の智能を磨け 若き日に汝の希望を星につなげ四つの言葉を基本理念として、人権尊重の精神に立脚し、人間・自然・歴史・世界・文明などに対する幅広い視野や、人生の基礎となる思想を養い、人生の意義について自ら学び考える力を育成する。21世紀を担う豊かな人間性を備えた創造性豊かな人材の育成をめざす。					
学 校 運 営 方 針	私学の存在意義は、建学の精神に沿った教育と、時代の要請に応え柔軟に対応する特色ある教育にある。本校の教育は学園の基本方針に沿って、本来あるべき高校生活を十二分に展開する中で学習と教科外活動(部活動等)の両立に立脚した「人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成」をめざす。また情報化・国際化の進展に対応し、それぞれの教科においてその目的に沿った教育を展開する。併せて、地域社会との教育的連携・貢献をはかり、地域の要請に応える。					
令和元年度学校重点目標						
昨年度の成果と課題	実践最重点目標	具 体 的 目 標			評価(3月)	成果と課題
令和元年度校務分掌・学年重点目標						
昨年度の成果と課題	分掌・学年	分掌・学年重点努力目標	具体的方策			
成果 基礎学力向上、個性重視のた のチームティーチングやサポ ートティーチングを実施するこ ことができた 新たな取り組みとしてキャリア チャレンジ学習を実施した 奨学金等手続きを確実に実施 した 課題 学習やサポート体制などの充 実や新たな取り組みのための 研究・模索が今後の課題とな る	教務部	[1]効果的に学力を伸ばすための授業態勢の構築	①円滑な授業が行われるための時間割作成と運用 ②試験や行事において、効果的に対応できる特別時間割の作成 ③効果的な50分授業のあり方の検討と定着 ④学校行事の充実化と連携した授業時間の確保	[1]	B	授業時間確保という観点 では、曜日によるばらつき を解消できなかった点は 課題である。スタディサプ リを利用した学習はシス テム化することができ、特 に年度末の休校の時には 有効に活用できた。校務 システムの仕様変更を 行ったが、年度途中のた め次年度に持ち越した。 通知表の発行を学年末の みにし、5段階評価を記載 するようにしたことは良 かった。評価の在り方や 適正化を今後も図って、 基礎学力の向上に努めた い。
		[2]コースに対応した授業環境の推進	①教科と連携した公開授業・研究授業の推進(研究部との連携) ②AL授業の構築と評価の在り方の検討 ③東海大学をはじめ、進路に応じた学力保障 ④スタディーサプリとポートフォリオの効果的な活用	[2]	B	
		[3]情報管理室、学年と連携した円滑な成績処理の推進	①校務システム(Symphony)の円滑な運用とデータ提供 ②評価システムの見直しと成績処理システムの改良 ③非常勤講師との連携	[3]	B	
		[4]家庭と連携した生徒の授業に臨む姿勢づくり。	①保護者への確実な情報提供(成績・通知表への学年末5段階表示・行事等) ②三者面談の効果的な実施と成績不振者への年間を通じた指導の推進 ③成績不振者の指導のシステム化	[4]	B	
		[5]その他	①新教育課程への対応と生徒の実情に対応しつつ業務の効率化を図る規定の確立 ②国際化を踏まえた留学生受け入れ対応の確立	[5]	B	
成果 基本的生活習慣の確立につい ては担任・教科担当の協力を より概ね良好。 課題 学年との連携 自転車の管理や教室等の鍵 の管理の徹底	生徒指導部	[1]基本的生活習慣の確立	①挨拶の励行(教職員間の挨拶の徹底、明るく爽やかな挨拶と正しい言葉遣いの推進) ②正しい服装の徹底(学年・クラスでの推進・各授業での指導、各集会での検査実施) ③時間の厳守(教務、学年と連携して遅刻防止の推進、遅刻指導の徹底) ④環境の整備美化の取組み(清掃方法の指導、用具の運営管理、特別大掃除の推進)	[1]	B	昨年度に比べて年度当初 に登下校指導を含めた基 準をしっかり持った指導や 各種委員会活動と連携し た様々な強化週間の実施 を計画した。年間を通し て、特別指導対象者は 徐々に減少傾向にあり、 一定の効果が得られたと 考えている。しかし、本年 度から導入された教員の 週休制度と3年生が三学 期に自宅研修期間になる ことへの対応ができてず、 生徒の規範意識の低下に つながった。
		[2]指導体制の確立	①各学年との連携を取っての指導体制を図る(特に3年生については、面接指導等において進路指導部との連携を図る)	[2]	B	
		[3]部活動の推進	①同好会、部活動(運動部、文化部、総合部、チャレンジ学習部)の参加者増員への取組み、学園オリンピック参加への推進 ②活動場所の確保と安全点検 ③部室管理(清掃、備品管理の取組、施錠の徹底)	[3]	A	
		[4]安全教育の推進	①校内施設安全確保と衛生点検の推進 ②自転車通学生の安全指導	[4]	B	
		[5]問題行動の防止と再発防止	①盗難防止と貴重品管理の徹底(持ち物への記名の徹底) ②携帯電話、不要物の校内持ち込みの防止 ③校内、校外巡回強化(通学指導、登下校指導の徹底)	[5]	B	
		[6]生徒会活動の活発化	①後援会生活指導委員との連携	[6]	B	
成果 進路説明会・面接指導の積極 的実施 小論文指導による推薦合格者 増 就職専従進路担当者配置 による就職希望者100%の決定 教科担当者会議の充実による 効果的な学習指導の確立 大学・短大の入試説明会への 参加による積極的な情報の収 集 課題 教科別の個別指導が十分では なかった チャレンジ学習部の指導強化 が課題	進路指導部	[1]一貫教育の推進～付属推薦入学者35%、他大学を含む進路決定率100%をめざした進路指導の徹底 その実現のための各学年との連携強化。	①付属推薦を大前提とした各学年との一層の連携 (ア)1学年・・・進学説明会や学年の指導を通じ進路意識を芽生えさせる。東海大学をPRする。 (イ)2学年・・・学部説明会と『現代文明論』の授業で東海大学のPRおよび説明会等による推薦志望への導き。 (ウ)3学年・・・説明会・面談等による付属推薦希望者の確保。 ②東海大学熊本キャンパスとの連携強化。(生徒・保護者対象のオープンキャンパス等の企画と実施) ③特別奨励入学制度の積極的PRによる優秀な付属推薦入学者の確保。 ④大学案内やパンフレットなど情報提供による1年生から効果的な進路指導の充実。 ⑤体験留学(農学部・海洋学部)PRによる参加者の増加に向けた取り組み。	[1]	B	付属推薦希望者は、昨年 と変わらない数であった。 付属推薦に特化した指導 ではなく、他大学の入試 状況を踏まえた指導が必 要。他大学の公募推薦等 の倍率や結果を生徒に周 知し、そこから付属推薦 へアプローチすることも必 要。次年度へ向け、推薦 基準の中に、学園基礎学 力定着度試験の重要度 が増したことを受け、生徒 たちもいい意味でアプ ローチしやすくなる。しか し、今年度に関しては、専 門学校進学者が増加し、 大学進学に関する意識が 非常に低かった。今年度 の状況を踏まえ、来年 度、新たな取り組みもス タートさせる。
		[2]効果的な進学指導	①他大学・短大進学希望者に対する指導体制の確立。 ②学園基礎学力定着度試験や校外模試を活用した進学指導。 ③小論文指導・面接指導の取り組み。「現代文明論」や3学年団との連携による指導体制の確立。 ④進路意識を高めるガイダンス等の実施。 ⑤専門学校進学希望者への進路指導。	[2]	B	
		[3]就職希望者にむけた指導強化	①就職希望者への徹底した進路指導。 ②ガイダンスや面接指導を充実して、内定率100%をめざす。入社後の取組等も含めた指導。	[3]	A	
		[4]各種情報収集・整理および閲覧コーナーの充実(PC5台設置)	①東海大学関係をはじめとする国公立・有名私立・地元有名大学の資料提供。 ②他大学・短大等への説明会参加。 ③各模試のデータ活用。	[4]	A	
		[5]スーパー特進難関受験コース・アスリートコースのそれぞれにおける目標設定とその充実	①3カ年にわたる指導計画の確立と授業担当者による連絡会の開催。 ②スタディサプリによる宿題配信を強化し、さらなる学力向上に努める。	[5]	A	

<p>成果 「高校現代文明論」の授業プログラムの中で建学の精神他、コミュニケーション力や知的財産に関する知識の習得ができた。</p> <p>課題 気力・体力・学力向上に向けた取り組み。生徒会活動や行事の活性化。</p>	研究部	[1]高校現代文明論授業を通した全人格的教育の充実	①新編高校現代文明論（テキスト）を軸に『建学の精神』を主体とした内容の構築 ②習得分野の設定と授業計画を設定 ③現代文明論研究授業の実施（1年＝11月、2年＝10月に実施） ④現代文明論の中での東海大学熊本3学部との間での『ニューキャリアチャレンジ』の実施	[1]	B	<p>高校現代文明論の推進に関しては各付属校の取り組みも参考にしながら幅の広い取り組みが行えた。1年目の積み上げが求められる2年次の文明論の質を更に計画的に高めていく必要がある。今年で3年目を迎えたアクティブラーニングを基盤にしたベストティーチャーの選出については過去2年の取り組みの中から更に効果的な実践が行えた。学校評価に向けた取り組みをより詳細に分析しデータ化していくことが課題である。</p>
		[2]授業評価のオープンな活用とベストティーチャー制度の確立による授業改革の推進	①アクティブラーニング推進委員会との連携の中でそれに基づいた質問項目の確立 ②7月に実施する授業評価アンケートに基づいたベストティーチャーの選出と表彰	[2]	A	
		[3]授業・行事・生活習慣に関する研究活動	①人権教育・道徳教育の推進による人権意識の高揚および「心の培養」とそれに基づく行動を実践	[3]	A	
		[4]教職員・生徒の必要に応じた研修の計画と実施。	①教職員研修の充実（進路指導研修・アクティブラーニング推進研修・SNSモラル講座他） ②生徒研修の充実（「宿泊研修」「修学旅行」など） ③次年度に向けた宿泊研修・修学旅行等の内容を検討	[4]	A	
		[5]学校評価に向けた取り組み	①在校生にはマークシートリーダー、保護者においては新たに連絡アプリを活用した『総合アンケート』の実施 ②地域行事などへの参加による本校の教育活動を積極的にPR ③学校の日を最大限に活用した地域との一層の連携（本校の施設・設備の開放など）	[5]	B	
		[6]国際理解に向けた取り組み	①外国語教育にとどまらない国際交流事業の啓発と推進（留学生等の受け入れ） ②アジア派遣研修事業（マレーシア・ベスタリ校）への教職員・生徒の積極的参加を推進	[6]	A	
<p>成果 挨拶の励行と校則の遵守については概ね良好であった 保護者会の出席率は高かった 習熟度別学習による学習意欲の向上がはかれた。</p> <p>課題 成績上位者に対する学習指導の強化が求められる 学習記録票の積極的運用のため製本したものを採用する必要がある</p>	1学年	[1]高校生活への順応と基本的な生活習慣の確立（礼儀、挨拶、言葉遣い）	①校則の正しい理解とその遵守（学年集会やHRなどで正しい理解を促し、全教員が共通認識のもと同じ目線で徹底した指導を行う） また、朝指導の対応を徹底 ②挨拶の励行（心のこもった挨拶ができるようにする） ③出席の督励（正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。問題のある場合は家庭との連絡を密にして対応する。） ④美化意識の高揚を図り、清掃活動を徹底させる。（教員の関りを強化）	[1]	B	<p>[1]に関しては、概ね良好であった。挨拶に関しては、語先後礼で行ったりすることができている。しかし、まだまだ不十分な部分もあるため、次年度に継続して指導を行っていく。</p> <p>[2]に関しては、学年集会やSHR、授業などを活用して学習の重要性を常に発信してきた。</p> <p>[3]に関しては担任と教科担当が密になり連携を行うこともできた。</p> <p>[4]に関しては、主に進路指導部や研究部と連携し、生徒に進路について考えさせる機会を多く持つことができた。進路について真剣に向き合えたのではないかと思</p>
		[2]態度教育……社会で通用する価値観を身につけさせる	①「学びの姿勢（態度）」を身につけさせる。（高校は自己成長の場であり、生活面・学習面において素直さ・謙虚さの大切さを理 ②HR、授業時（机を並べる、ゴミを拾う、挨拶の徹底、服装を正す、聞く態度の指導） ③集会時（集合時間の厳守、聞く態度の指導、歌唱指導）	[2]	B	
		[3]学習意欲の向上と環境づくり	①学習に対する心構え・方法の指導（『Xの約束』の厳守） ②学習状況・理解度の担任把握（教科担当者との情報交換、面談等） ③学習環境の整備（教室内の整理整頓、掲示物による学習意欲の向上の工夫） ④教務部・進路指導部・教科と連携してコース・クラス・類の目標に応じた学習指導の推進 ⑤スタディサプリ、ポートフォリオの積極的な活用	[3]	B	
		[4]進路指導	①進路指導部・教務部・研究部と協力して進路情報を提供し、1学年終了までに進路の方向性を決めさせる。 ②入学当初から東海大学へ進学意識が向くような指導を積極的に行う。 ③スタディーサポートや模擬試験を活用して個別面談を実施し、進路意識の高揚を図る。	[4]	A	
<p>成果 保健室・相談室利用の生徒の減少 挨拶の励行 集会での歌唱 進路指導部との連携による保護者対象進路説明会の実施</p> <p>課題 生徒指導部との連携による服装頭髪指導</p>	2学年	[1]基本的な生活習慣の確立	①校則の正しい理解とその遵守（すべての場面でルールを守る意味を考えさせる。） ②挨拶の励行（場所や状況にあった挨拶をさせる。） ③適切な言葉づかい（敬語）、身だしなみ（服装）の徹底。 ④周囲への配慮（周囲への目配り気配り心配り） ⑤出席の督励（正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。家庭との連絡を密にする。） ⑥自己管理能力の育成（時間の厳守。提出物の期限厳守。） ⑦自他を尊重する精神の涵養（異なる考えを持つ他者への理解。国際的理解を深める。）	[1]	A	<p>[1]年間を通して、大半の生徒は基本的な生活習慣が確立され、物の考え方や周囲への気配りや配慮、言葉遣いなど大人の対応ができる生徒が増えた。これは本校の教育指針である「人間教育」の成果である。</p> <p>[2]スーパー特進コースについては朝の0時限から夜遅くまで勉学と部活動でしっかり目標を立て、文武両道と両立して努力を重ねその成果が表れた。進学コースについては、しっかり基礎学力をつけ次のステップに向けて目標を明確に立て結果を求めて努力し、部活動と両立させた。</p> <p>[3]年度後半に向かうにつれて将来の自分の道を模索</p>
		[2]学習習慣の確立と環境づくり(学習)	①学習に対する心構えの指導（日々の授業の大切さ） ②授業中の態度・提出物の状況の担任把握（授業連絡票の活用と教科担当者との情報交換） ③学習環境の整備（掲示物を含めた教室内の整理整頓。） ④学習到達度の把握（模擬試験などの積極的活用） ⑤コースに応じた学習指導（日々の課題・小テスト） ⑥英語教育の強化（卒業までに英検準2級程度の力を取得させる。）	[2]	A	
		[3]進路指導(進路)	①進路指導部・教務部・研究部と協力して東海大学の学部・学科の魅力を紹介し、東海大学への関心を高める。 ②2年次終了までに進路の方向性を決定させる。（付属推薦での進学率を増やす） ③模擬試験などの外部模試を活用して進路意識の高揚を図る。 ④スーパー特進部による模試分析を活用した進路指導を行う。	[3]	B	
<p>成果 学年主導型の生活指導については一定の成果が上がった 進路指導部との連携により大学進学を意識した授業の構成ができた</p> <p>課題 東海キャリアチャレンジを通じての短大との連携学習については付属推薦進学者の増加に直接繋がらなかった</p>	3学年	[1]基本的な生活習慣の向上(特に期限・期日を守る)	①校則を遵守した生活（学内の手本・全教員が共通認識・理解させて指導・社会に出る直前である事を意識） ②挨拶・適切な言葉遣いの励行 ③出席の督励（正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。問題のある場合は直ちに家庭連絡で確認する） ④自己管理能力の育成（メモの徹底・適切な書類記入・期日の厳守） ⑤自他を尊重する精神の涵養（周囲への感謝の気持ち 異なる考えを持つ他者への理解）	[1]	A	<p>生徒一人ひとりの進路実現を図るためには、その前提として[1]基本的な生活習慣や[2]学習習慣の確立が必要であり、力を入れて指導できた。そのため、概ね成果を得ることができた。さらに、進路指導部と連携を密にし、個々の指導を丁寧に行うことができた。</p> <p>課題としては、進路実績に対する目標に近づいたための組織的な動きの確立と担任の先生方の意識向上である。</p>
		[2]学習習慣の確立と環境づくり(学習)	①最終学年として学習指導の充実 ②志望理由書・小論文を中心とする「書き方指導」 ③授業中の態度・提出物の状況の担任把握（授業連絡票の活用） ④学習環境の整備（課題や課題期限の提示・教室美化の具体的指示） ⑤進路指導部と連携しての模擬試験・英検・漢検等への積極的な参加の奨励 ⑥コースに応じた学習指導（日々の課題・達成度）	[2]	A	
		[3]進路指導(進路)	①進路指導部と協力して付属推薦35%を目標に、生徒の実力・適性に合う東海大学への進学を推進 ②進路決定後、もしくは部活動引退後の「継続する学び」の姿勢への指導 ③看護または医療系進学・公務員希望者の模試参加奨励・受験合格への援助 ④進研模試やスタディサポート等を利用した、志望校合格に見合う学力の向上 ⑤スーパー特進コース 大学入試センター試験による更なる進路の拡大と学力の維持	[3]	A	